

経営探訪

MANAGEMENT REPORT

岡谷セイケン株式会社

皆でともに歩む
価値ある企業の創造へ

“東洋のスイス”と呼ばれる精密加工分野に特化した企業が集結する岡谷市で1963年創業。1966年には「有限会社岡谷精機研究所」として法人化し、OA機器等の精密機械の構成部品の製作を手掛けてきた。1982年に組織変更、「岡谷セイケン株式会社」となる。以降、1991年、十文字町（現横手市）に秋田工場、2002年にはベトナムに現地法人の設立と、自動車部品製造を中心に、国内外でものづくりを牽引する。

先を見据えた投資でグローバル化に対応

創業時から精密加工分野に特化し、ステンレスやアルミ、チタンなど、精密切削加工部品の製造を得意としてきた岡谷セイケン株式会社。

高度で精密な技術に加え、国内外に生産工場や積極的な設備投資を展開しており、現在、神奈川県横浜市にある本社を筆頭に、岡谷工場（長野県岡谷市）、秋田工場（秋田県横手市）、ベトナム工場と、国内2カ所、海外に1カ所の自社工場を保有する。同社を率いるのは、1年前、代表取締役として就任した増田社長だ。

「始めは、産業機械やOA機器等の部品製造を主軸にしていましたが、国内生産の減少に伴い、徐々に自動車部品にシフトしていきました。事業が軌道に乗り、新たな生産拠点として秋田工場を設立したのが1991年のことです」。



“できない理由よりも、やれる方法を考える”。

目指してきたのは世界で戦う力であり、創業以来、“不可能への挑戦”を社訓に掲げてきた岡谷セイケンでは、切削加工はもちろん、研削、検査と、製品の設計から完成まで一貫生産できる体制が整っている。中でも圧倒的なのは、効率を重視し、オートメーション化された、大量生産にも対応できる設備群だ。

「自社ですべてを完結することができるからこそ、最新の機械を用いた自動化と高度なエンジニアの技術を両立させ、急速に進むグローバル化にも対応可能な納期の短縮と高品質の維持が可能となっています」。

裏付けされた実力主義で現場を信じる

挑戦は留まることを知らない。更なる生産性の拡大を図るべく、秋田工場では2018年に増設を行い、現在、国内で最も多い従業員数を抱える生産拠点となっている。8名から始まった工場を支えるのは70名を超える従業員と100台近く立ち並ぶNC自動盤だ。それぞれの業務で1人が受け持つ範囲は広く、働く側は大変だろうと増田社長は語る。

「国際的な競争力を持つにはコストダウンは必須です。当社では、例えば、稼働に10人が必要な現場には10人を配置します。『余裕を持たせるためにもう1人2人配置しておこう』という考えはありません。その代わりに、一人ひとりの教育に力を入れ、全員の技術力の底上げに務めています」。

新入社員や若手社員に対する教育システムや大手製造業への研修派遣等、岡谷セイケンでは入社後に多くの学び機会を与えられる。

それ故に、受け継がれてきたのは徹底した実力主義の土壤で



あり、増田代表自身もその一人だ。代表に就任し、1年。それ以前は30年以上に渡り、営業や経理を通じて社内外の調整に尽力し、その姿勢が現会長の小松充明氏に認められることとなった。

だからこそ、「同じく会社のために」と、ともに歩んできた各現場のリーダーたちへの信頼は厚い。現場から上がってきた評価に基づき、この春、新たに秋田工場の工場長に任命したのは高校卒業と同時に入社して力をつけてきた従業員だ。実力があれば、50歳を超えた女性でも正社員に登用しており、「目指しているのは社員が誇れる会社であるということ。努力した分だけ報われる環境で目標を持ち、夢を叶えて欲しい」と増田代表は笑顔を見せる。

時代に合わせた働きかたを推進

全員が同じ方向に向かえるよう、密な情報共有も欠かさない。国内外の拠点を繋ぐテレビ会議等はもちろん、定期的に訪れる秋田工場でも、“用があるなら、用がある人が出向けば良い”と気さくに歩き、従業員の話聞く。



さらに、従業員一人ひとりの力を信じ、努力してもらう分、経営者としても社内環境改善には力を入れる。岡谷セイケンでは、社会保険や有給休暇、社員旅行等の福利厚生に至るまで、社員が持つ全ての権利をパートやアルバイトの区別なく与えられている。義務化以前から当然のように休日取得や残業減等“働き方改革”を実践してきた増田代表の考え方はユニークだ。

「1日1,000個の製品を作らなければならないとしたとき、これを急に明日1,500個にするのは無理ですが、普段から1010個作ろうと心がけていたらどうでしょう。積み上げれば年間平均の供給量は十分に確保でき、10個を余分に作るための工程の見直しや技術力向上等、自然と全体の生産性アップにも繋がります」。

世界を見据えながらも、あくまでも会社を支えるのは大勢の従業員たち。足元が揺るがないからこそ、その一歩が踏み出せる。これからも増田代表が率いる岡谷セイケンには、全員一丸となって時代の先に挑戦し続ける。

- 1・2 製品は機械と熟練者の目のWチェックで行われ、高品質を維持する。
- 3 設備投資は積極的に行い、生産量を確保している。
- 4 何気ないコミュニケーションも工場内の重要な環境向上のひとつ。



**代表取締役
増田 孝一**
ますだ たけいち

**岡谷セイケン株式会社
秋田工場**

〒019-0505
秋田県横手市十文字町仁井田八萩82番
TEL. 0182-42-3571
FAX. 0182-42-4506

創業 / 1963年
● 資本金 / 4,100万円
● 従業員数 / 国内133名(秋田工場75名)
● 営業品目 / 自動車部品(AT, ABS部品)、
油圧機器部品、ソレノイドバルブ製品、OA機器部品

